

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

東祖谷中学校
「学力向上実行プラン」

- ①基礎・基本の定着と主体的に学習に取り組む生徒の育成
「目的意識をもって学習する態度の育成」「生徒自らが『考える』授業の構成」
- ②学び合い活動を通して豊かな表現力を身につけた生徒の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 古賀 雅治
委員 (総括) 藤原 隆司 (総括補佐) 藪下 和仁
(教務主任) 久保 拓史 (安全教育) 滑田 威吹

校長

藤原 隆司

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に対する態度がとて良く、真面目に取り組むことができる。また、タブレット端末の活用能力が高い。 ●学力の定着度合いに個人差があり、既習の知識と関連づけた発展的な学習が深まりにくい。	・基礎的・基本的な知識・技能が確実に身についている。 ・既習の知識を活用して発展的な学習につなげることができる。 ・各種検定や試験等に進んで挑戦する意欲がある。	・タブレット端末の個別学習向けのドリル教材を活用して、既習内容の定着を図る。 ・ふりかえりシートを活用して授業の振り返りをさせるとともに、生徒自身が成長を実感できる手立てとする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中の話し合い活動に、積極的に参加することができる。また、タブレット端末を場面に応じてうまく活用できる。 ●自分の意見を整理したり、文章にまとめたりして発表することを苦手としている生徒が多い。	・表現活動において意見のまとめ方や聞き方、発表の仕方などの基本的なスキルを習得している。 ・相手の意見を聞き、目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを表現することができる。	・意見を交換し合う場面に授業に多く取り入れ、生徒の表現活動の活性化を図る。 ・タブレット端末の効果的な活用方法を教員間で共有し、研究と研修を重ねる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○解き方が決まっている課題については、試行錯誤をしながら最後まで粘り強く取り組める。 ●基礎基本の定着が不十分、もしくは基礎基本の段階から抜け切れない生徒がほとんどである。そのため主体的な学習が満足にできる段階にはないと思われる。	・難しい課題に直面しても諦めずに既習の内容と関連づけて課題解決に向かえる。 ・仲間と意見を交流させたり、協働したりして課題解決をはかることができる。 ・自身の苦手な分野に気づき、改善するための学習方法を工夫することができる。	・形成的評価や総括的評価を効果的に実施することで、生徒の自己調整学習への意欲を高める。 ・授業中に問題演習の時間や、タブレット端末を活用した個別学習の時間を設ける。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

